

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：82609

研究種目：新学術領域研究(研究領域提案型)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H06398

研究課題名(和文) ライフコース疫学による主体価値の思春期形成過程と人生への影響の解明

研究課題名(英文) Lifecourse epidemiology to investigate the process of personalized value development during adolescent

研究代表者

西田 淳志(NISHIDA, Atsushi)

公益財団法人東京都医学総合研究所・社会健康医学研究センター・社会健康医学研究センター長

研究者番号：20510598

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 275,480,000円

研究成果の概要(和文)：西田らは、主体価値測定アプリを開発し、思春期大規模コホート研究に導入した。その結果、思春期のロールモデルの獲得・更新と自己制御性の発達が、自律性の成熟の基盤となり、さらにその自律性が基盤となって主体価値が形成されていくことを解明した。山崎らは、全英出生コホートデータを用い、思春期の主体価値と自己制御の発達の相互作用が高齢期のウェルビーイングを予測することを解明した。川上らは、国内外のコホートデータを用いた一連の研究から、思春期主体価値の2要因モデルを提唱した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

思春期主体価値が人間の長期的なウェルビーイングを高めるための重要な介入点となる可能性があること、さらに思春期の主体価値発達を支える要因としてロールモデルを獲得・更新していくプロセスが重要であることが示唆された。子どもたちのウェルビーイングを高めるために、多様なロールモデルと出会える環境を構築することが重要である。

研究成果の概要(英文)：Nishida and colleagues implemented a self-developed application for measurement of personal values within a large adolescent cohort study. Results of this research demonstrated that acquisition and subsequent revision of role models, along with development of self-regulation, formed the basis for maturation of individual autonomy; individual autonomy then proceeded to underlie formation of personal values. Yamasaki and colleagues, using data from a British birth cohort, demonstrated that the interaction of adolescent personal values and self-regulation predicted wellbeing in old age. Using data from both national and international cohorts, Kawakami and colleagues investigated relationships between childhood experiences and adolescent personal values, and additionally demonstrated influences of adolescent personal values on physical and mental health in adulthood.

研究分野：ライフコース疫学、発達疫学、行動科学

キーワード：ライフコース 発達疫学 思春期 主体価値 コホート

1. 研究開始当初の背景

主体価値に関するこれまでの研究の多くは、主体価値の形成がある程度進んだ成人を対象としたものであり、その「発達プロセス」を縦断的にとらえようとする研究、特に大規模コホート研究によって実証的に明らかにしようとする研究は皆無であった。

2. 研究の目的

若者の活力は、少子高齢社会において社会的イノベーションを維持・発展させるための貴重な人的資本であり、それを最大限に引き出す社会の在り様が今日問われている。一方、若者の無気力(アパシー)や長期ひきこもりは、社会問題となって久しく、未だその解消に向けた有効策は見出されていない。思春期は、人生という長期的生活行動を自ら主体的に選択する動因(「主体価値」)が形成される重要なライフステージあり、この時期に形成される主体価値は、その後の人生における自己実現、それを希求する際のモチベーションの基盤となり、人間のウェルビーイングの源となる可能性がある。C01 計画班は、思春期の主体価値の形成過程、およびその後のライフアウトカムに与える影響を、大規模コホート研究によって実証的に解明しようとする国際的にも初めての試みである。

3. 研究の方法

西田らは、日本で最大規模となる思春期コホート(東京ティーンコホート)を用いてこの主体価値の思春期形成過程の解明を目指した。東京ティーンコホートは、都内3自治体(世田谷区・三鷹市・調布市)に住む10歳の児童約3300人の思春期発達過程を縦断的にとらえることを目的としたプロジェクトであり、これまでのところ(16歳時点)82%の追跡率を維持している。C01 計画研究では、この東京ティーンコホートを用いて、14歳時点と16歳時点の2時点の追跡調査を行い、主体価値の思春期形成過程の解明を進めた。2度のコホート調査に先立って、研究初年度には、主体価値の新たな測定方法の開発も行った。

山崎らの研究チームは、思春期主体価値とウェルビーイングに代表される高齢期のアウトカムとの縦断的な関係を世界最長の追跡期間(70年)を誇る英国出生コホート National Survey of Health and Development (NSHD: 1946 British Birth Cohort) データを用いて検証した。

川上らの研究チームは、国内外の大規模コホートデータを使用し、思春期の主体価値および価値へのコミットメントと成人期の健康・ウェルビーイングとの関連、ならびに文化差がその関連に与える影響を検証した。

4. 研究成果

西田らは、独自に開発した主体価値測定アプリを用いることで、従来の測定法よりもバイアスが少ないデータを得られるようになり、さらに価値の優先順位や価値の矛盾率など、価値形成のプロセスを把握するうえで重要な情報が収集可能となった。さらにこの主体価値測定法によるデータとコホートデータバンクに蓄積されている他の発達情報を統合的に活用し、思春期主体価値の形成プロセスを縦断的に検証することが可能となった。東京ティーンコホートの12歳、14歳、16歳の3時点データを活用した縦断解析によると、12歳時の自己制御とロールモデル獲得が相互に影響を及ぼしながら、14歳時の主体感覚(エイジェ

ンシー)に影響を与え、さらにその14歳の主体感覚が16歳の主体価値・矛盾率に影響を与える可能性が示唆された。こうした大規模縦断データを用いた解析結果などから、自己制御力の獲得だけでなく、自分の目標となるロールモデルを思春期に獲得できることが、主体感覚の形成を介して、主体価値の形成を促していく可能性が見出された。思春期に「自分もこうなりたい」と思える人と出会い、そのロールモデルと自分とのギャップを埋めようと努力する中で自己制御もさらに育まれ、主体性、主体価値が構築されていくものと思われる。多様なロールモデルと出会える環境や機会を積極的に増やしていくことが思春期主体価値の形成に重要となることが示唆された。

山崎らは、思春期の主体価値と自己制御の相互作用が高齢期のウェルビーイングに与える影響を明らかにした。思春期における自己制御は、その後の人生におけるネガティブな転帰(精神疾患,犯罪等)を予測する一方、高齢期のウェルビーイングとは関連は認められていない。本研究では、思春期に内発的な主体価値を強く持っている、たとえ自己制御が低くても高齢期のウェルビーイングが低下しないことが明らかとなった。本研究結果から内発的な価値に基づく行動を強化するACT(Acceptance and Commitment Therapy)のようなアプローチを自己制御が低い思春期児童に行うことで、長期的なウェルビーイングが高まる可能性が示唆された(Yamasaki, Nishida et al J Posit Psychol, 2021)。

川上らは、国内外のコホートデータを使用し、思春期の主体価値および価値へのコミットメントと成人期の健康・ウェルビーイングとの間に比較的一貫した関連を見出した。日本人では周囲との関係への価値が良好なアウトカムに関係したが、米国では成功するチャンスのあることが良好なアウトカムと関係し、一方、他人とのトラブルを避けることへの価値は良くないアウトカムと関係していた。思春期主体価値と文化との相互作用が主体価値の成人期のアウトカムへの影響を決定していると想像される。子供時代の困難な経験(虐待や学校でのいじめ)は価値領域の選択に、家庭の文化資本や学校での適応は価値へのコミットメントに関連していることが見出された。一連の研究成果から、川上らは、思春期主体価値の2要因モデルを提唱した。すなわち、価値領域の選択とそれにどの程度コミットするかは異なる要因により決定され、価値領域は文化・社会規範との相互作用で成人期の健康とウェルビーイングに影響する(価値のコミットメントは直接影響する)と考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 31件／うち国際共著 10件／うちオープンアクセス 17件）

1. 著者名 Ando S, Nishida A, Yamasaki S, Koike S, Morimoto Y, Hoshino A, Kanata S, Fujikawa S, Endo K, Usami S, Furukawa TA, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K	4. 巻 48
2. 論文標題 Cohort profile: The Tokyo Teen Cohort study (TTC).	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Epidemiol	6. 最初と最後の頁 1414-1414g
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ije/dyz033. 	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Iijima Y, Okumura Y, Yamasaki S, Ando S, Okada K, Koike S, Endo K, Morimoto Y, Williams A, Murai T, Tanaka SC, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A	4. 巻 80
2. 論文標題 Assessing the hierarchy of personal values among adolescents: A comparison of rating scale and paired comparison methods.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Adolesc	6. 最初と最後の頁 53-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.adolescence.2020.02.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Sugimoto N, Nishida A, Ando S, Usami S, Toriyama R, Morimoto Y, Koike S, Yamasaki S, Kanata S, Fujikawa S, Furukawa TA, Sasaki T, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K	4. 巻 53
2. 論文標題 Use of social networking sites and desire for slimness among 10-year-old girls and boys: A population-based birth cohort study.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Int J Eat Disord	6. 最初と最後の頁 288-295
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/eat.23202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Okumura Y, Yamasaki S, Ando S, Usami M, Endo K, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A	4. 巻 29
2. 論文標題 Psychosocial burden of undiagnosed persistent ADHD symptoms in 12-year-old children: A population-based birth cohort study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Atten Disord	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1087054719837746	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamasaki S, Ando S, Richards M, Hatch SL, Koike S, Fujikawa S, Kanata S, Endo K, Morimoto Y, Arai M, Okado H, Usami S, Furukawa TA, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A	4. 巻 206
2. 論文標題 Maternal diabetes in early pregnancy, and psychotic experiences and depressive symptoms in 10-year-old offspring: A population-based birth cohort study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Schizophr Res	6. 最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2018.12.016.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakanishi M, Yamasaki S, Endo K, Ando S, Morimoto Y, Fujikawa S, Kanata S, Takahashi Y, Furukawa TA, Richards M, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A	4. 巻 14
2. 論文標題 The association between role model presence and self-regulation in early adolescence: A cross-sectional study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0222752
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0222752	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Endo K, Yamasaki S, Ando S, Kikusui T, Mogi K, Nagasawa M, Kamimura I, Ishihara J, Nakanishi M, Usami S, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A	4. 巻 17
2. 論文標題 Dog and cat ownership predicts adolescents' mental well-being: A population-based longitudinal study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health	6. 最初と最後の頁 e84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph17030884	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakanishi M, Yamasaki S, Nishida A, Richards M.	4. 巻 72
2. 論文標題 Midlife psychosocial wellbeing and cognitive function in later life among women: An observation study using a British birth cohort.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Alzheimer's Dis	6. 最初と最後の頁 835-843
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/JAD-190590	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ozawa S, Iijima Y, Ando S, Okada N, Kawashima T, Ohta K, Yamasaki S, Kasai K, Nishida A, Nakatani H, Koike S	4. 巻 62
2. 論文標題 Development of the Brief Personal Values Inventory for Sense of Values	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Jpn Psychol Res	6. 最初と最後の頁 69-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jpr.12277	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi N, Ando A, Jinde S, Fujikawa S, Okada N, Toriyama R, Masaoka M, Sugiyama H, Shirakawa T, Yagi T, Morita M, Morishima R, Kiyono T, Yamasaki S, Nishida A, Kasai K	4. 巻 116
2. 論文標題 Social withdrawal and testosterone levels in early adolescent boys 	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychoneuroendocrinology	6. 最初と最後の頁 104596
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psyneuen.2020.104596	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okada N, Yahata N, Koshiyama D, Morita K, Sawada K, Kanata S, Fujikawa S, Sugimoto N, Toriyama R, Masaoka M, Koike S, Araki T, Kano Y, Endo K, Yamasaki S, Ando S, Nishida A, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K	4. 巻 209
2. 論文標題 Smaller anterior subgenual cingulate volume mediates the effect of girls' early sexual maturation on negative psychobehavioral outcome.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neuroimage	6. 最初と最後の頁 116478
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuroimage.2019.116478	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe K, Kawakami N, Nishi D	4. 巻 19
2. 論文標題 Association between personal values in adolescence and mental health and well-being in adulthood: a cross-cultural study of working populations in Japan and the United States	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Annals of General Psychiatry	6. 最初と最後の頁 e7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12991-020-0260-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasuma N, Watanabe K, Iida M, Nishi D, Kawakami N.	4. 巻 14
2. 論文標題 Personal values in adolescence and psychological distress in adults: A cross-sectional study based on a retrospective recall.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0225454
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0225454.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasuma N, Watanabe K, Matsunaga A, Nishi D, Kawakami N.	4. 巻 9
2. 論文標題 Personal values in adolescence and suicidality: a cross-sectional study based on a retrospective recall.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 e214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-019-2194-4.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ando S, Nishida A, Yamasaki S, Koike S, Morimoto Y, Hoshino A, Kanata S, Fujikawa S, Endo K, Usami S, Furukawa TA, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K; TTC Scientific and Data Collection Team.	4. 巻 -
2. 論文標題 Cohort Profile: The Tokyo Teen Cohort study (TTC)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Epidemiol.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ije/dyz033.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ando S, Usami S, Matsubayashi T, Ueda M, Koike S, Yamasaki S, Fujikawa S, Sasaki T, Hiraiwa-Hasegawa M, Patton G, Kasai K, Nishida A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Age relative to school class peers and emotional well-being	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0214359.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Okumura Y, Yamasaki S, Ando S, Usami M, Endo K, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Psychosocial Burden of Undiagnosed Persistent ADHD Symptoms in 12-Year-Old Children: A Population-Based Birth Cohort Study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Atten Disord.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1087054719837746.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamasaki S, Ando S, Richards M, Hatch SL, Koike S, Fujikawa S, Kanata S, Endo K, Morimoto Y, Arai M, Okado H, Usami S, Furukawa TA, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Maternal diabetes in early pregnancy, and psychotic experiences and depressive symptoms in 10-year-old offspring: A population-based birth cohort study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Schizophr Res.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2018.12.016.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Iijima Y, Okumura Y, Yamasaki S, Ando S, Nakanishi M, Koike S, Endo K, Morimoto Y, Kanata S, Fujikawa S, Yamamoto Y, Furukawa TA, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Response inhibition and anxiety in adolescents: Results from a population-based community sample.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Affect Disord.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.12.010.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujikawa S, Ando S, Nishida A, Usami S, Koike S, Yamasaki S, Morimoto Y, Toriyama R, Kanata S, Sugimoto N, Sasaki T, Furukawa TA, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K.	4. 巻 68
2. 論文標題 Disciplinary slapping is associated with bullying involvement regardless of warm parenting in early adolescence.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Adolesc	6. 最初と最後の頁 207-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.adolescence.2018.07.018.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ando S, Nishida A, Usami S, Koike S, Yamasaki S, Kanata S, Fujikawa S, Furukawa TA, Fukuda M, Sawyer SM, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K.	4. 巻 238
2. 論文標題 Help-seeking intention for depression in early adolescents: Associated factors and sex differences.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Affect Disord	6. 最初と最後の頁 359-365
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.05.077.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shimodera S, Koike S, Ando S, Yamasaki S, Fujito R, Endo K, Iijima Y, Yamamoto Y, Morita M, Sawada K, Ohara N, Okazaki Y, Nishida A.	4. 巻 201
2. 論文標題 Lithium levels in tap water and psychotic experiences in a general population of adolescents.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Schizophr Res.	6. 最初と最後の頁 294-298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2018.05.019.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morimoto Y, Yamasaki S, Ando S, Koike S, Fujikawa S, Kanata S, Endo K, Nakanishi M, Hatch SL, Richards M, Kasai K, Hiraiwa-Hasegawa M, Nishida A.	4. 巻 8
2. 論文標題 Purpose in life and tobacco use among community-dwelling mothers of early adolescents.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMJ Open.	6. 最初と最後の頁 e020586
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2017-020586.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamasaki S, Usami S, Sasaki R, Koike S, Ando S, Kitagawa Y, Matamura M, Fukushima M, Yonehara H, Foo JC, Nishida A, Sasaki T.	4. 巻 195
2. 論文標題 The association between changes in depression/anxiety and trajectories of psychotic-like experiences over a year in adolescence.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Schizophr Res.	6. 最初と最後の頁 149-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2017.10.019.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Morishima R, Ando S, Araki T, Usami S, Kanehara A, Tanaka S, Kasai K.	4. 巻 273
2. 論文標題 The course of chronic and delayed onset of mental illness and the risk for suicidal ideation after the Great East Japan Earthquake of 2011: A community-based longitudinal study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychiatry Res	6. 最初と最後の頁 171-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psychres.2018.12.151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwanaga M, Imamura K, Shimazu A, Kawakami N.	4. 巻 13
2. 論文標題 The impact of being bullied at school on psychological distress and work engagement in a community sample of adult workers in Japan.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0197168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0197168	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Obikane E, Shinozaki T, Takagi D, Kawakami N.	4. 巻 234
2. 論文標題 Impact of childhood abuse on suicide-related behavior: Analysis using marginal structural models.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Affect Dis	6. 最初と最後の頁 224-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.02.034.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田淳志、佐々木司、下寺信次、岡崎祐士	4. 巻 27
2. 論文標題 思春期メンタルヘルス疫学調査：三重・高知大規模疫学プロジェクトの成果	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本社会精神医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 175-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤俊太郎、西田淳志、山崎修道、長谷川真理子、笠井清登	4. 巻 27
2. 論文標題 東京ティーンコホート	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本社会精神医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 181-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morokuma Y, Endo K, Nishida A, Yamasaki S, Ando S, Morimoto Y, Nakanishi M, Okazaki Y, Furukawa TA, Morinobu S, Shimodera S.	4. 巻 7
2. 論文標題 Sex differences in auditory verbal hallucinations in early, middle and late adolescence: results from a survey of 17 451 Japanese students aged 12-18 years.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e015239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2016-015239.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yong RKF, Inoue A, Kawakami N	4. 巻 17
2. 論文標題 The validity and psychometric properties of the Japanese version of the Compulsive Internet Use Scale (CIUS).	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 e201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-017-1364-5.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ando S, Koike S, Shimodera S, Fujito R, Sawada K, Terao T, Furukawa TA, Sasaki T, Inoue S, Asukai N, Okazaki Y, Nishida A.	4. 巻 78(3)
2. 論文標題 Lithium levels in tap water and the mental health problems of adolescents: an individual level cross-sectional survey.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Psychiatry.	6. 最初と最後の頁 e252-e256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4088/JCP.15m10220	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Endo K, Ando S, Shimodera S, Yamasaki S, Usami S, Okazaki Y, Sasaki T, Richards M, Hatch S, Nishida A	4. 巻 61(2)
2. 論文標題 Preference for solitude, social isolation, suicidal ideation, and self-harm in adolescents.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Adolescent Health	6. 最初と最後の頁 187-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jadohealth.2017.02.018.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 西田淳志、山崎修道、遠藤香織
2. 発表標題 Family pet ownership during adolescence: Findings from the Tokyo Teen Cohort Study.
3. 学会等名 International Symposium on Biological Environment and Human Health Based on Animal Symbiosis Science (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西田淳志
2. 発表標題 健康長寿社会の基盤となる思春期の健康と発達：日・英大規模出生コホート研究等の成果から
3. 学会等名 第66回 日本学校保健学会 特別講演 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西田淳志、山崎修道、安藤俊太郎
2. 発表標題 合理的予防介入に向けた思春期コホート研究
3. 学会等名 第60回 日本児童青年精神医学会総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎修道, 安藤俊太郎, 遠藤香織, 小池進介, 長谷川真理子, 笠井清登, 西田淳志
2. 発表標題 思春期発来前後での思春期精神病症状体験と自殺関連行動・抑うつ症状の関係～思春期出生コホートによるエビデンス
3. 学会等名 第14回日本統合失調症学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 旭紘史、渡辺和広、西大輔、川上憲人。
2. 発表標題 思春期の主体価値とその後の喫煙行動との関連について。
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nishida A, Yamasaki S, Iijima Y, EndoK, Ando S.
2. 発表標題 Personal value in adolescence
3. 学会等名 International Symposium on Adolescent Health and Personalized Value (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawakami N, Nishi D, Watanabe K.
2. 発表標題 Determinants and adult consequences of personalized value in adolescence: a population-based study.
3. 学会等名 International Symposium on Adolescent Health and Personalized Value (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安藤俊太郎、西田淳志
2. 発表標題 水道水中リチウムと若年者の抑うつ予防
3. 学会等名 第15回 日本うつ病学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安藤俊太郎、西田淳志
2. 発表標題 地域思春期児童の前向き調査：東京ティーンコホート
3. 学会等名 第59回 日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamasaki S, Ando S, Koike S, Usami S, Endo K, French P, Sasaki T, Furukawa TA, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A.
2. 発表標題 Dissociation mediates the relationship between peer victimization and hallucinatory experiences among early adolescents.
3. 学会等名 Congress of International Society for Psychological and Social Approaches to Psychosis. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamasaki S, Nishida A
2. 発表標題 Adolescent aspiration and well-being across the life course: an international collaborative study. .
3. 学会等名 International Workshop and Young Researcher's Meeting for Science of Personalized Value Development through Adolescence. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 Ando S, Nishida A
2 . 発表標題 Tokyo Teen Cohort Study.
3 . 学会等名 The 16th Congress of the International Federation of Psychiatric Epidemiology (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Ando S, Nishida A
2 . 発表標題 The Tokyo Teen Cohort study: an adolescent cohort study with life course approach.
3 . 学会等名 The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE 2017). (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Endo K, Ando S, Shimodera S, Yamasaki S, Usami S, Okazaki Y, Sasaki T, Richards M, Hatch S, Nishida A.
2 . 発表標題 Preference for Solitude, Social Isolation and Suicidal Problems.
3 . 学会等名 125th APA Annual convention. (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Kawakami N, Watanabe K.
2 . 発表標題 Personalized value development in adolescences and health and well-being in adulthood: a retrospective study.
3 . 学会等名 第26回欧州精神医学会議 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 安藤俊太郎・西田淳志・宇佐美慧・小池進介・山崎修道・金田渉・藤川慎也・古川壽亮・長谷川眞理子・笠井清登.
2. 発表標題 思春期の援助希求行動を支えるもの：東京ティーンコホート研究から.
3. 学会等名 第21回日本精神保健・予防学会学術集会.(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎修道、西田淳志
2. 発表標題 思春期のこころの健康を支える周産期要因：母子手帳研究から.
3. 学会等名 第21回日本精神保健・予防学会学術集会.(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安藤俊太郎・西田淳志・宇佐美慧・小池進介・山崎修道・金田渉・藤川慎也・古川壽亮・長谷川眞理子・笠井清登.
2. 発表標題 思春期の援助希求行動を支えるもの：東京ティーンコホート研究から
3. 学会等名 第21回日本精神保健・予防学会学術集会.(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamasaki S, Ando S, Koike S, Usami S, Endo K, French P, Sasaki T, Furukawa TA, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A.
2. 発表標題 Dissociation mediates the relationship between peer victimization and hallucinatory experiences among early adolescents.
3. 学会等名 Congress of International Society for Psychological and Social Approaches to Psychosis (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Tokyo Teen Cohort http://ttcp.umin.jp/ 東京都医学総合研究所社会健康医学研究センター https://mentalhealth-unit.jp/ 東京大学・精神保健学分野研究室 ホームページ http://plaza.umin.ac.jp/heart/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山崎 修道 (YAMASAKI Syudo) (10447401)	公益財団法人東京都医学総合研究所・社会健康医学研究センター・主席研究員 (82609)	
研究分担者	川上 憲人 (KAWAKAMI Norito) (90177650)	東京大学・大学院医学系研究科(医学部)・教授 (12601)	
研究分担者	長谷川 真理子 (HASEGAWA Mariko) (00164830)	総合研究大学院大学・なし・学長 (12702)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Tokyo-Toronto-Bristol Cohort Consortium Meeting	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Workshop for Adolescent Cross-Cohort Study between Melbourne and Tokyo	開催年 2017年～2017年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------